



シトロエン GS1220

取扱説明書



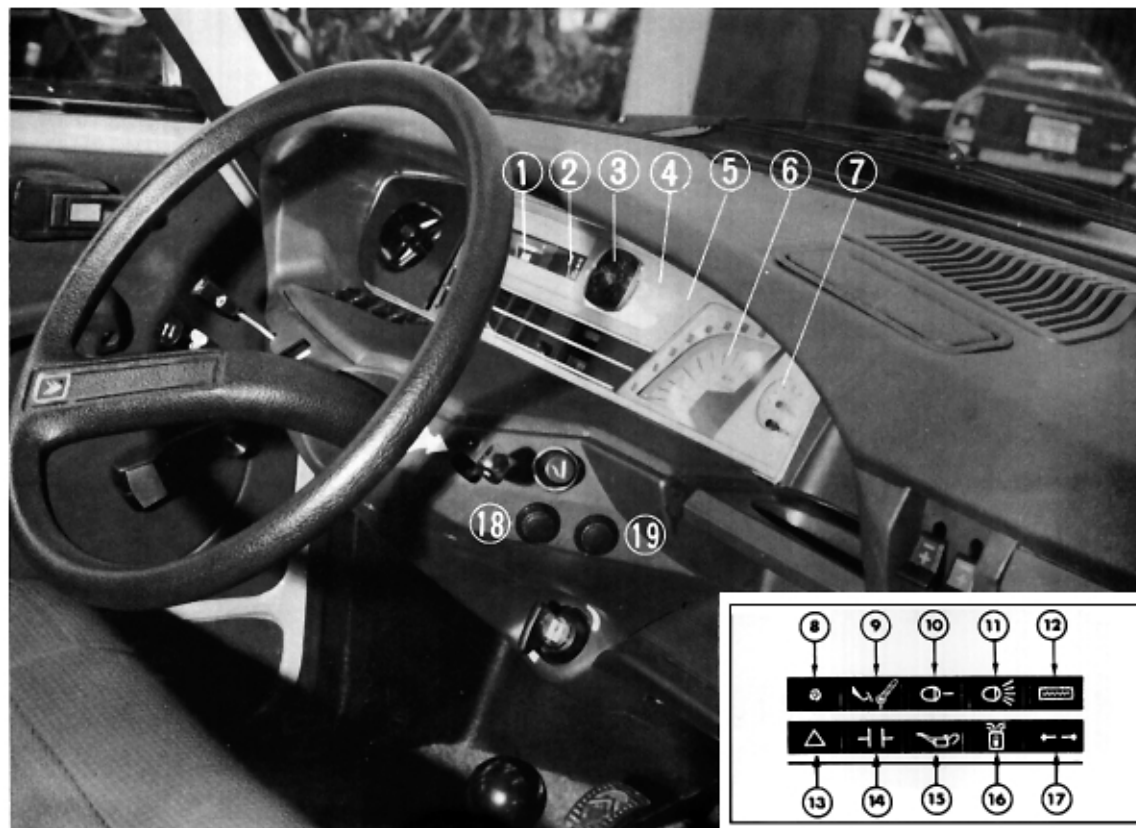
西武自動車販売株式会社

ダッシュ・パネル計器類

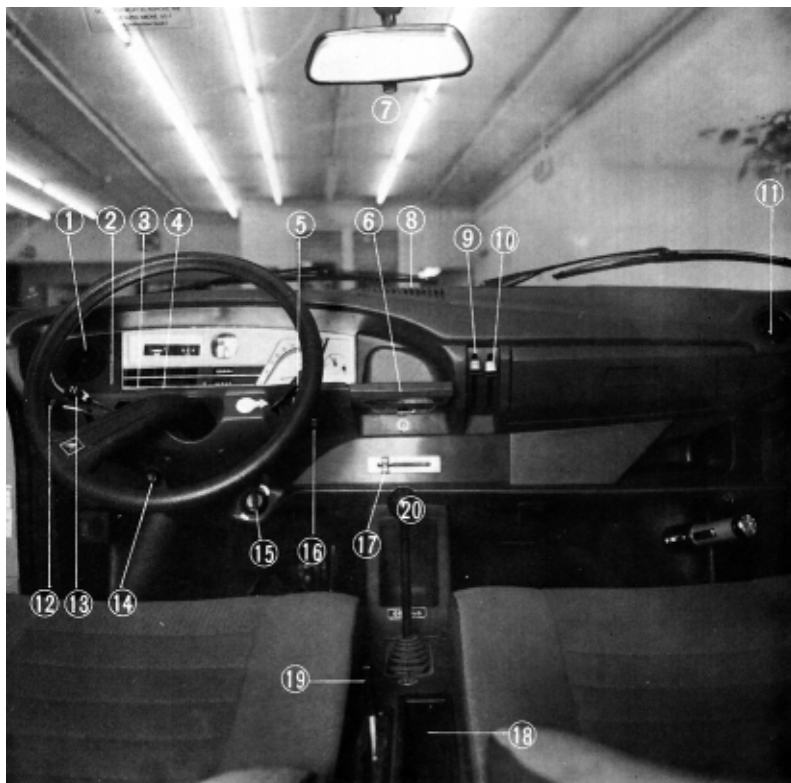
時計以外は、エンジン・キーを“ON”にして作動する。

- ① 充電表示計 アイドリング回転以上では針が白い部分にあり、赤い部分に入った場合は異常、針がチェック・マーク内の場合、バッテリーが十分に充電されており、走行2時間以内に白い部分に戻らない時は異常です。
- ② ガソリン・ゲージ タンク容量43ℓ
- ③ スピード・メーター ドラム式、エンジン・スイッチを入れると、スピード・メーターに灯がつき、明暗は摘みで調整されます。メーターは色分けされており、ギヤ・シフトを指示します。
スピード表示の上の数字はそのスピード時の制動距離を示します。
- ④ 積算走行距離計
- ⑤ トリップメーター スピード・メーター左側のボタンを押して右方向に廻すと“0”に戻せます。
- ⑥ タコメーター 針がレッド・ゾーンに入ることは避けて下さい。
最初の1000km迄は4,500r・p・m以下に抑えて下さい。
- ⑦ 時 計 右下の摘みは時間調節ノブ
- ⑧ 予 備 オプション
- ⑨ エンジン・オイル (イ)温度警戒灯（ブレーキ・パッド摩耗警戒灯と兼用される）走行中についたら、ブレーキ・パッドが摩耗していますから交換して下さい。(ロ)フロントのグリル・カバーを使用して走行中ついたら時は（ブレーキを踏まないで）、カバーを取外して、2～3分走行後には消えます。
それでも消えない時は低速走行して下さい。
- ⑩ 緑色警戒灯 スモールライト

- | | |
|------------|--|
| ⑪ 碧色警戒灯 | ヘッドライト上向き |
| ⑫ 黄色警戒灯 | リヤ・ウインドウ・デミスター |
| ⑬ 赤色 // | パザードランプ |
| ⑭ 赤色 // | エンジン・オイル・プレッシャー |
| | エンジンスイッチを入れるとつきますが、始動すれば消えます。走行中ついた時は、直ちにエンジンを停止し、オイルレベルを調べて下さい。 |
| ⑯ 赤色警戒灯 | 油圧系統 |
| | エンジン・スイッチを入れるとつきますが、始動後短時間に消えます。消える迄は走行を待って下さい。 |
| | 走行中についた時は、油圧系統の故障です。 |
| ⑰ 緑色警戒灯 | 方向指示灯 |
| ⑱ スピードメーター | 明暗調整 |
| ⑲ 計器盤ライト | // |



(第1図)



(第2図)

操縦装置及附属類

参照ページ

① 換気口	15
②~④ ヒーター、ファン、フレッシュ・ エア・ファン、非常点滅灯、リヤ ー・ウインドウ・デミスター	14
⑤ ライト・スイッチ	14
⑥ 駐車ブレーキ	11
⑦ 後射鏡	8
⑧ 灰 皿	
⑨ ヒーター調節	14
⑩ 換気調節	14
⑪ 換気口	15

	参照ページ
ワイパー及ウォッシャー	13
方向指示器ホーン	13
チョーク	9
防盜装置，エンジン，スイッチ及スターター	9
シガー・ライター	
暖房切換	14
ラジオ（オプション）	
車高調整装置	11
ギヤ・シフト・レバー	11



(第2図の2)

鍵

- 小さい鍵は、ドア及トランク用
- 大きい鍵は、防盜装置、エンジン・スイッチ及スターター用（紛失時の為に、鍵のナンバーは是非控えて下さい。）

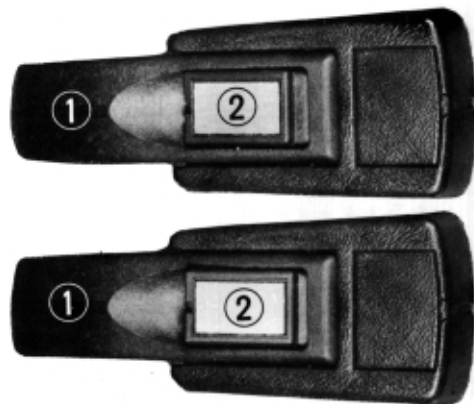
扉

- フロント扉のロックは外側より鍵でロックして下さい。
- 室内より開く時は①のレバーを引いて下さい。後部ドアのロックは②のボタンを押し、ロックを外す時は①のレバーを引いて下さい。（第3図）

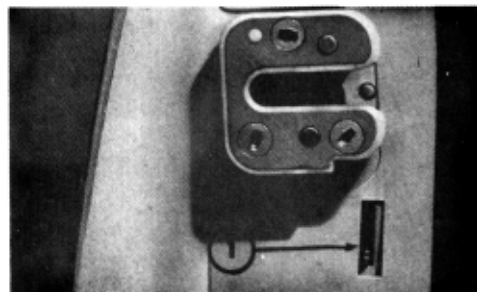
後部ドアのロック外れ防止装置をドア・ラッチの小さいレバー①を下方に押し使用して下さい。その場合、外側からしか開きません。（第4図）

トランク

- リヤ・バンパー上のボタンを親指で押し、他の指をバンパーにかけて開けて下さい。
- 閉める場合は軽く押下げれば自動的に閉まります。



（第3図）



（第4図）

ボンネット

ダッシュ・ボード左側のリング摘み第5図①を引くと、ボンネットが僅に開きます。ボンネットの下に手を差入れて中心部の安全ロック第6図①（第7図）を手前に引いて下さい。一杯に開けて少し戻すと支柱がロックされ、閉める時は少し上げてからロックを外し、静かに閉めて下さい。



(第6図)



(第5図)



(第7図)

座席前後調整(第8図)

シートのロック・レバー①は右下にあり、レバーを持上げて前後して下さい。座席を前後に押すスプリングがついています。位置の定まった処でレバーを放せばロックします。

リクライニング

バック・シートのリクライニング調整レバーは②左側にあります。レバーを持上げて背中を押すか、放せば必要な角度に動き、レバーを下げればロックします。

③ ヘッドレスト

室内後射鏡(昼・夜切換式)

後射鏡の角度を変えずに、手前に引けば昼間用、押し夜間用となります。

安全ベルト(第9図)

短いベルト側で身体に合うように調整して下さい。御希望により、後部座席にも安全ベルトが取付けられますので、御用命下さい。

☆ 運転する前に、座席の位置、シート・バックの傾斜、後射鏡の位置、ベルトの長さを御自分に合う様に調整して下さい。



(第8図)



(第9図)

☆ 始 動

防盜装置，エンジン・スイッチ・スターター（第11図）

鍵の位置：①ロック

②ガレージ用（ステアリング・フリー）

③エンジン・スイッチ“ON”

④スターター

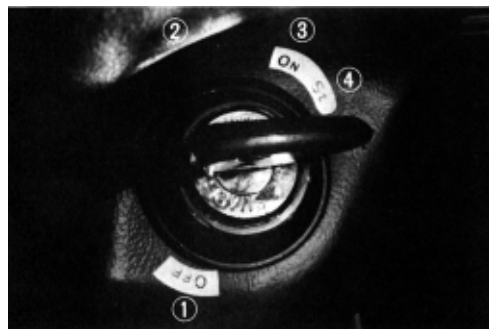
ロックを外す時，鍵を押しながら，ハンドルを軽く廻すと容易に外れます。
又，スターターはエンジン始動後直ちに戻して下さい。一回で始動せず再度スターターを廻す時は，一度スイッチを切らないと始動できません。
ロックして鍵を抜く時は，完全にロックした事を確認の上，静かに抜いて下さい。尚，完全に停止しない内に鍵を抜くことは避けて下さい。

チ ョ ー ク（第10図①）

エンジンが冷えている時だけ使用し，正常な回転になったら直ちに戻して下さい。

エンジン始動前：下記の点検を行なって下さい。

- | | |
|----------------|-----------|
| - ガソリン | - 方向指示灯 |
| - エンジン・オイル・レベル | - 灯火類 |
| - LHM オイル・レベル | - 後射鏡 |
| - バッテリー液 | - 車高調整 |
| - ウォッシャー | - タイヤ・圧 |
| - ホーン及追越灯 | - グリル・カバー |
| - ヘッド・ランプ | |



（第11図）

エンジン始動:

- アクセル・ペダルを踏まずに
- エンジン・スイッチを入れ、エンジン・オイル及油圧・オイルプレッシャーの警戒灯がつくか確認して下さい。
(油圧オイルの警戒灯は圧力が充分な時はつきません。)

冷時の始動:

- チョークを一杯に引いて、アクセル・ペダルを踏まずにスターターを廻して下さい。
- 一回で始動しない時は、一端スイッチを切って3~4秒後にスターターを廻して下さい。
- エンジンが始動したら、チョークを放して下さい。自動的に第2チョークの位置で止ります。
- 回転が正常になったら、チョークを充分に戻して下さい。若しエンストしましたら、チョークを第2チョークの位置まで引いて、又始動して下さい。
- エンジンが暖まったら、チョークを完全に戻して下さい。

暖時の始動

- チョークを使用せずに、アクセル・ペダルを一杯に踏んで、始動して下さい。
- 一回で始動しない場合、アクセルは踏んだままスイッチを切り、3~4秒後に再度始動して下さい。

ギヤを入れる前:

- エンジンの空ブカシをしないで、車高が正常な位置になる迄待ち、オイル・プレッシャーの警戒灯が消えるのを確認して下さい。
- 若し警戒灯が消えない時は、消える迄待って下さい。

ギヤー・シフト：（12図）

- ギヤー・シフトの位置は、チェンジ・レバー前のパネル上に表示されています。バックは“R”で示されています。
- 各ギヤーの速度限界はスピード・メーターの表示の色別に従って下さい。
- バック・ギヤーを入れる時は、車が完全に停止してからレバーを下方に押し、シフトして下さい。

駐車ブレーキ：

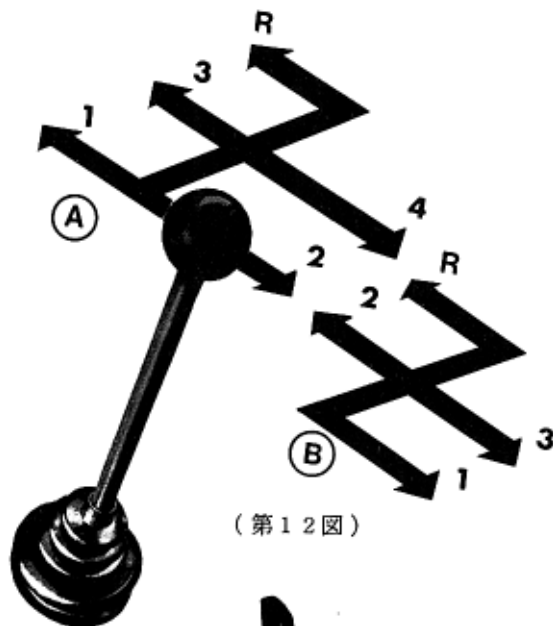
- 手前に引いて下さい。
- 戻す時は、ハンドル内のキャッチを押しながら手前に引き、それから押し戻して下さい。

車高調整：（13図）

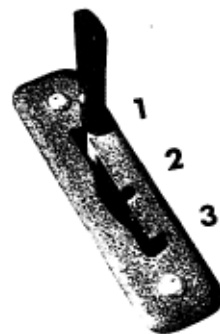
- 車高調整レバーは前部座席の中間、運転席の右側にあります。
- 標準走行車高は、第1番目のノッチ（エンジンに向かって）で最も乗心地の良い位置です。
- 第2番目は、雪又は水溜り等の路面の悪い時。
- 第3番目は、最高の位置で、タイヤ交換時以外走行中の使用は避けて下さい。但し、特に路面上障害物を避ける時には、低速で短時間の使用にして下さい。

☆ ブレーキの点検：

- ブレーキの油圧回路は赤色の警戒が勧告する様になっています。若しこのランプがついた時は、直ちに停止し、再始動の上ハンド・ブレーキを使用しながら低速で退避して下さい。
- 同じ様な措置が、若しリヤ・サスペンション回路に起きた



（第12図）



（第13図）

時にも必要です。リヤ・サスペンションの油圧が下る為です。

- パットライニングの厚みは、定期的に点検して下さい。若し厚みが2耗になったら交換して下さい。
- 交換したら当りが出る迄は、過激な使用は避けて下さい。ブレーキの効きが、「ムラ」になる原因となります。

制動距離：(第14図)

GSのブレーキは特に制動効力が良くなっていますが、その効力を有効にするには、制動に必要な距離はスピードに比例することを忘れないで下さい。

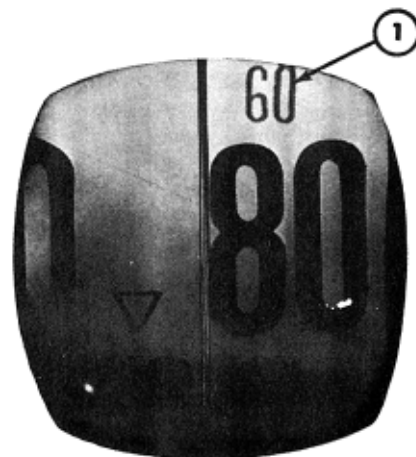
その為に、スピード・メーターのスピード表示の上に、必要制動距離が表示されています。但し全てが正常な状況での表示で、特に濡れたり、滑り易い路面でそれ以上の距離が必要なのは勿論です。

トルク・コンバータ(オプション)

オプションなトルク・コンバーター付は、操作が容易です。クラッチ・ペダルが無い事も勿論ですが、ギヤも3段となり、市内走行は第2速、ハイウェイは第3速で、第一速は坂道発進や山岳走行用です。早い運転操作は3段使用も結構です。クラッチ・ペダルはありませんが、ギヤ・チェンジは普通と同じく、アクセルを放してからシフトして下さい。寒冷地での発進時に、第1速又はバックへのシフトが困難な時がありますが、ハンド・ブレーキを充分に引いて、第2速か第3速にギヤを入れ数秒してから、第1速又はバックに入れて下さい。

方向指示器及ホーン (15図)

- 方向指示器のレバーは右折は上に(1)、左折は下(2)。戻す時は、中間の位置に手で戻して下さい。
- 緑の指示灯がつかます。



(第14図)

追越灯(パッシング・ランプ)

-方向指示器のレバーを前方に押ししている間は、ヘッド・ランプが点いています。(3)。

-方向指示中でも、パッシング・ランプの使用は可能です。

ホーン

レバーを手前に引いて下さい。(4)。

ワイパー及ウォッシャー(16図)

ワイパー：レバーを下方(1)に下げて下さい。

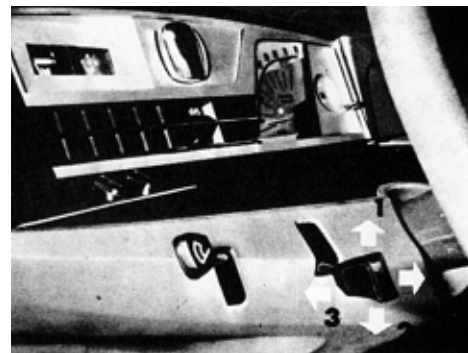
第1速と第2速がありますが、第2速は特に激しい雨以外は使用を避けて下さい。

止める時は、レバーを元の位置に戻して下さい。

ウォッシャー：

手前に引いて下さい。(2)

ワイパー・ブレードは時々清掃して下さい。



(第15図)



(第16図)

ライト・スイッチ：(17図)

- スイッチの摘みの白い点のマークで全てのランプが消えます。
- スイッチ・レバーをステアリング・ハンドルの方に引いた位置で摘みをまわすと、緑色のパイロットランプがつき、市内走行中の灯火がつきます。
- 更にレバーを廻しますと、ハイウェイ走行用となり上向きヘッド・ライトがつきます。
- ステアリング・ハンドルから下方に押しますと、下向きヘッド・ライトの切換となります。

後退灯(バック・アップ・ランプ)

チェンジ・レバーをバックに入れると自動的に後退灯がつきます。

暖房：(17図)

- 赤い摘みを下げて下さい。下げる程度により、温風の量が調節されます。

換気：(17図)

- 青い摘みを下げて下さい。下げ方で外気の流入の量が調節されます。

換気調節：(17図)

- レバーが左か右の端にあると温風及冷風が、ウインド・スクリーン又は床方向に導かれます。
- 換気の方法は△印の方向で示され、青は冷風、赤は温風です。
- レバーが中間の位置では、上・下に均等に換気が行われます。



(第17図)



(第18図)

側方換気口：（18図）

- 開けるには、中心の摘み①を右方向に廻し、廻し方で風量が調節されます。
- 換気口の方向を変えて風の方向が変えられます。

暖房ファン：（17図）～（19図）

- 暖房用赤い摘みを下げて、スイッチを入れて下さい。
- 切る時は、再度スイッチを押して下さい。

リヤー・ウインドウ防湿：

- デミスターのスイッチを押して下さい。黄色の警戒灯がつきます。
- 切る時は、再度スイッチを押して下さい。

サンバイザー：

ステアを廻して側方への位置転換が出来ます。

室内灯：

運転座席のフロント・ドアを開けると自動的につきます。ドアが閉まっている時は、室内灯のスイッチを押して下さい。

☆ 整備・点検要領：

レベルの点検及補充（20図）

- ① ウィンドウ・ウォッシャー： 必要に応じ、水及ウォッシャー液を補充して下さい。
- ② 油圧オイル・タンク： タンクの上部にレベルチェック・ゲージがあります。オイルのレベルはエンジン回転中、車高を最高にした時、max. と min.の間です。



1

2

3

（第19図）

※ 補充には指定のLHMオイルのみ使用して下さい。

他のオイルを混入しますと、湯圧系統の損傷の原因となります。

(注) ブレーキ油等の植物性オイルの使用は絶対しないで下さい。

- ③ バッテリー： バッテリー液レベルは電極板上1～2 ㎖位が適当です。

補充は蒸留水を使用し、酸の補充はしないで下さい。

夏季は特に点検して下さい。

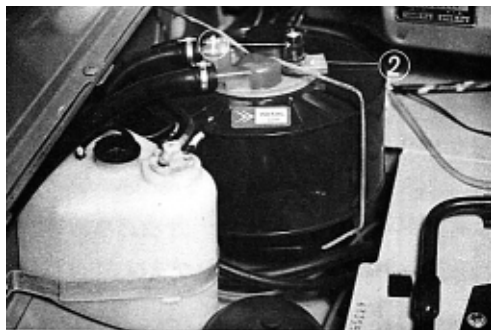
又点検中裸火の使用は避けて下さい。

- ④ エンジン・オイル・ディップ・スティック： オイルのレベルは、レベルゲージの端の切込の間で、点検は度々して下さい。特に長距離走行の前は点検して下さい。

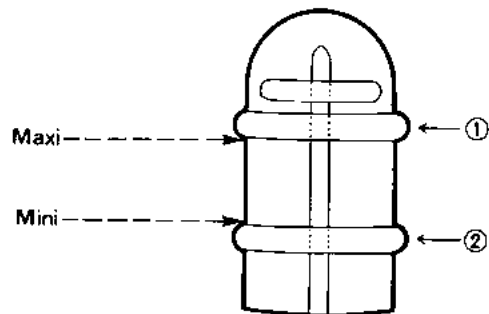
点検はエンジンを止めて10分間位後が最適で、レベルゲージの切込みは0.5 ℓに該当します。

- ⑤ 給油口： エンジン・オイルの補充は、ゲージの切込の上端迄とし、それ以上は入れないで下さい。

夏・冬に拘わらず、エンジンオイルは、指定の#40 シングルを使用し常に、レベルの“Maxi”まで入れて下さい。特に寒冷地の冬期ではマルチグレードを使用して下さい。添加剤の使用は絶対しないで下さい。



(第20図)





(第21图)

フロント・グリル・カバー

寒時にのみご使用下さい。

※高速道路運転時には、必ずカバーは外して下さい。

バッテリー

ターミナル及結合部を常にきれいにして下さい。若し酸化の兆候が出たらすぐそうじして下さい。

長期間車を使用しない時は、月に1回は充電が必要です。冬期には特に正常な充電が必要で、正常な充電の場合（比重 1.25～1.27）-50℃に耐え、不十分な充電の場合（比重 1.07～1.09）-5℃でバッテリーが破裂する事があります。

タイヤ

標準装置 145-15 ZX

145-15 XM+S（スノー・スタッド付）

タイヤ-圧 フロント 1.8 kg/cm²（26ポンド）

リヤ- 1.9 “（28 “）

スベア- 2.1 “（30 “）

スベア・タイヤ使用時圧の調整を忘れないで下さい。タイヤ-圧の調整は少くとも月1回は行い、特に長距離走行前には必要です。タイヤ-圧の如何によりタイヤの寿命に大きく影響します。

圧の点検は使用前が良く、使用中（暖時）は平均0.5気圧は高くなっています。

※ パンク修理後は、ホイール・バランス調整をして下さい。タイヤの減りを均一にする為に、（22図）の要領で交換をして下さい。

スノー・タイヤ

145-15×M+Sのタイヤにはスタッドが着けられます。その場合のタイヤ圧は、

フロント： 2.0 kg/cm² (29ポンド)

リヤ： 2.1 " (31 ")

スベアー： 2.3 " (33 ")

外装に関する注意：

冬期は特に外装に注意が必要で、塗装ばかりでなく車の底面、ホイール・キャップ等にも注意して下さい。

乾燥した表面をこすると傷の原因になり、又ガソリン、アルコール等の揮発性油はペイントやプラスチック部を損傷するので、注意して下さい。

ボデーの清掃：

洗車は塗装の保持には効果的ですが、下記に注意して下さい。

- 直射日光の下、霜のある時、熱せられた部分（ボンネット等走行後は可成り熱い）は冷えてから洗車しましょう。

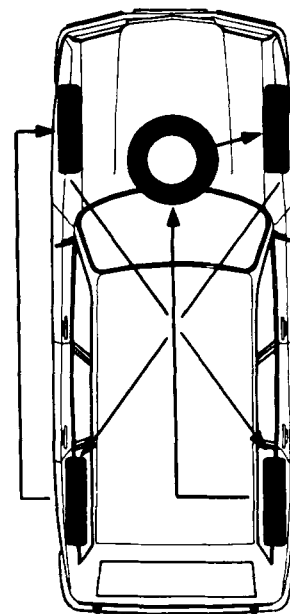
- スポンジ等に良く水を浸して何度も洗って下さい。洗剤等使用後は充分に水洗いして下さい。

- 水分のふき取りは、セーム皮等で良く水を切って行い、水滴を残さない様にして下さい。

- 洗車後、運転前にブレーキを何度も踏んで水を廃除して下さい。

窓の清掃：

アルコール又はガラス・クリーナでふいても結構ですが、リヤ・デミスター付の窓ガラスの内面には使用しないで下さい。デミスター付の内面は清潔なセーム皮で静かにふいて



(第22図)

下さい。ワイパー・ブレードも時折清掃して下さい。

モールの手入：

石鹼水の洗剤入りの水で洗い、水でよく洗い落とし流して下さい。

特にホイール・キャップは度々洗いませんと泥等の為に表面が浸され、磨きの必要が出て来ます。

水をよくふき取った後、ポリッシー剤で仕上げして下さい。

コール・タール

コール・タールが着いたら、出来る丈早く取除いて下さい。ガソリンやベンジン等の使用を避けて特殊のリムーバーかコール・タールのリムーバーを使って下さい。

ボデー・ポリッシュ：

冬期の終りに、ボデー・ポリッシュをして下さい。

内張の手入：

非苛性石鹼水を使って下さい。

特に汚れがひどい時は、90度の純正アルコールか、無鉛ガソリンでふいて下さい。

☆ 交 換

タイヤ： タイヤの交換は次の要領で行って下さい。

- ハンド・ブレーキを十分に引き
- エンジンをアイドリング回転にし
- 車高調整レバーを最高の位置にし
- 最高地上高になったら、エンジンを停止し
- (23図) ジャッキをかけ、ジャッキが地面に達する迄伸して下さい。
- ホイルキャップを外す(ドライバー等を使用)。キャップがハズレたらキャップを外側に引き、リーフ。スプリングが孔

から外れる様に押して下さい。(24図, 25図)

- ホイール・ナットを緩め、
- ジャッキを伸して、タイヤが地面から離れる迄上げて下さい。
- 最後にナットを外し、ホイールを取外して下さい。



(第25図)



(第23図)



(第24図)

電球：ヘッド・ランプ

：12V（26図）

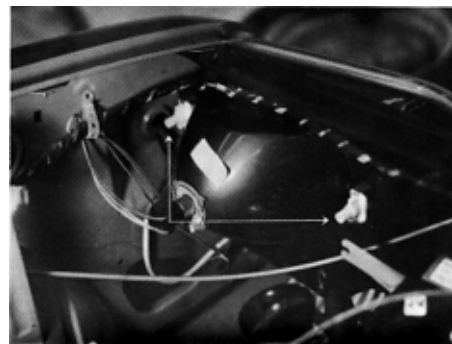
- スナップ・スプリングを外し、黒いプラスチックのコネクターを引出し、電球を交換して下さい。

ライト調整

- 正しいヘッド・ランプ調整は工場に行く必要がありますが、調整の必要がある時は（27図）、横方向の調整は、ヘッド・ランプ両側の白いプラスチック・スリーブを廻し、縦方向調整は、ランプの下にあるスリーブを廻して調整が出来ます。



（第26図）



（第27図）

フューズ：

フューズ交換の前に、切れた原因を探して下さい。

フューズ・ボックス（28図）はフロント・フェンダー内側に、バッテリーに面し、16アンペア2本と10アンペア2本の4本となっています。カバーはバッテリー方向に引いて下さい。

フューズボックス①

① 黄・スリーブ：10アンペア

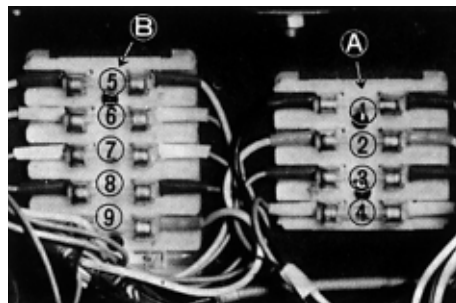
- | | |
|--------------|------------------|
| - サイド及尾灯（左側） | - バッテリー・インジケータ-灯 |
| - ナンバー・プレート灯 | - ガソリン・ゲージ灯 |
| - 時計灯 | - サイド及尾灯警戒灯 |
| - タコメーター灯 | |

② ブルー・スリーブ：10アンペア

- サイド及尾灯（右側）

③ 赤スリーブ：16アンペア

- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| - バッテリー・インジケータ- | - ヒーター・ファン |
| - ガソリン・ゲージ | - スピード・メーター・ライト |
| - ワイパー | - 制動灯 |
| - ウォッシャー | - トランク灯 |
| - オイル・プレッシャー | - 室内灯 |
| - 油圧・警戒灯 | - トルク・コンバーター・フラッチ・リレー（オプション） |
| - トルク・コンバーター・オイル温度警戒灯（オプション） | |



（第28図）

④ グリーン・スリーブ：16アンペア

- 方向指示灯

- ライター

- 換気ファン

- 時計

- リヤカー・ウインド・デミスター

- ラジオ (オプション)

- レギュラー

- バック・アップ・ランプ

フューズ・ボックス⑤

4本フューズの他に8本式がありますが、4本フューズ・ボックスの後側に更に一個の4本フューズ・ボックスが追加されています。

⑤ - 黄・スリーブ：ヘッド・ライト上向，左側，16アンペア

⑥ - 白・スリーブ // // 右側，16 //

⑦ - グリーン・スリーブ // 下向，左側，16 //

⑧ - 赤・スリーブ // // 右側，16 //

バッテリーの交換：12V175/35AH

- バッテリー前部のレギュレーター台を取外し、

- バッテリー・コードを外し

- バッテリー左側のナットを緩めて、クランプを外し

- 左方向にバッテリーを滑らせて取外す。

- 交換時には、ゴムキャップ付 ⊕ ⊖ の位置に注意して下さい。

スパーク・プラグ：マーシャル 3 4 HS NGKB 4 H又 B 6 H

-ギャップ：0.65～0.8mm (29図)

-交換には、プラグ・スパナを使い、中のゴム・チューブをプラグの絶縁体に押し込むと、取外しに便利です。

非常時のLHMの交換：

緑色のLHMの非常時の交換には、エンジンオイルSAE 10～20を使用して下さい。

但し、交換後、出来る丈早い機会に純正のLHMと入れ替えて下さい。

索引： 故障時等索引の必要がありましたら、

-フロント・クロス・メンバーの両端の孔に引掛け、フロント・エプロン保護の為、持上げる時には、板片を間に挿入して下さい。

-後部で索引の時は、リヤ・アキシルに引掛ける事は避けて下さい。

☆ 概要仕様：

乗員： 5名

最高巡航速度 150 km/h

1,000 r.p.m. の各ギヤの速度

1速 - 7.12 km/h

2速 - 11.76 "

3速 - 17.82 "

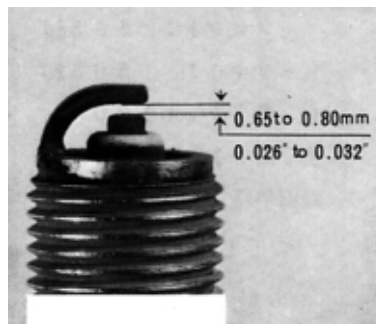
4速 - 24.28 "

後退 - 6.47 "

自重： 895 kg

-フロント：560 kg

-リヤ：335 kg



(第29図)

トルク・コンバータ付

1速 - 9.76 km/h

2速 - 16.00 "

3速 - 24.28 "

後退 - 10.88 "

A/T： 905 kg

-フロント：570 kg

-リヤ：335 kg

車輛総重量： 1,170 kg

ーフロント： 665 kg

ーリヤ： 505 kg

全長： 4,120 m

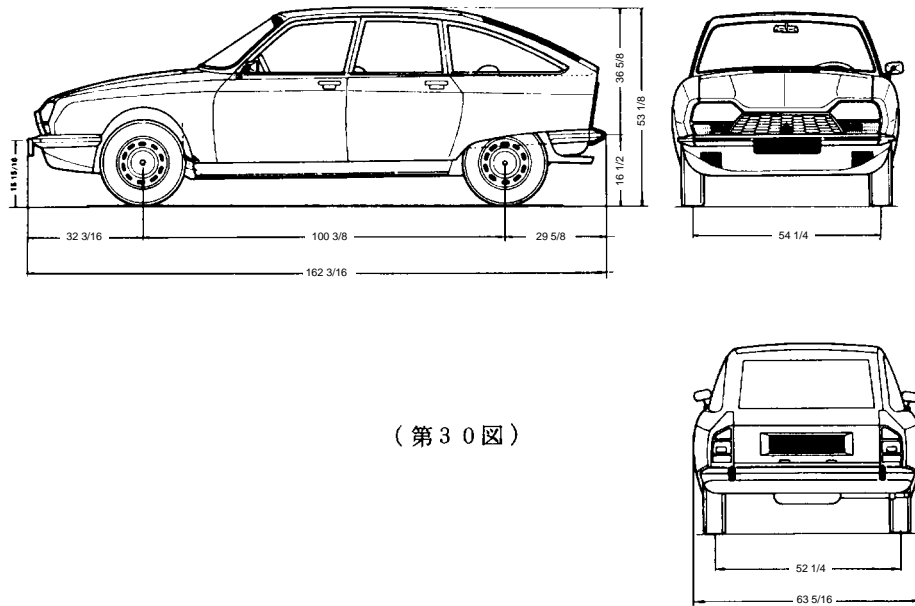
全巾： 1,610 m

回転半径：

車輛総重量： 1,180 kg

ーフロント： 675 kg

ーリヤ： 505 kg



(第30図)

エンジン:水平対向空冷4気筒

1,221cc 77×65.6 $\frac{mm}{mm}$

圧縮比: 8.2:1

最高馬力: SAE 65.5HP/6,000r.p.m

最高トルク: SAE 8.9m.kg/3,250r.p.m

アイドルリング: 800r.p.m

最高回転: 6,250r.p.m

バルブ・ロッカー・ギャップ: 排気 0.2 $\frac{mm}{mm}$ 冷時
吸気 0.2 $\frac{mm}{mm}$

ガソリン・タンク: 43ℓ

エンジン・オイル: 4.2ℓ (一般交換時3.5ℓ)

点火順位: 1-4-3-2

タイミング・アドバンス: 遠心及バキューム式

ストロボ・セット: 33/2,500r.p.m

(バキューム切離)

コンタクト・ブレーカー・ポイント・ギャップ: 0.35~0.45 $\frac{mm}{mm}$

油圧タンク: 3.3ℓ (LHM)

トー・イン: 0~2 $\frac{mm}{mm}$

エンジンオイルは、指定の#40シングルを使用し常に、レベルの“Max i”まで入れて下さい。